

環境未来都市・京都ビジョン

健康で環境にやさしい
「歩くまち・京都」

平成23年11月24日
京都市

(別添4)

環境未来都市・京都ビジョン

未来の京都が直面する制約

■炭素制約・エネルギー制約

温室効果ガスの排出削減が不可避
市条例で削減目標を明記*1990年度比
2020年度 △25% <2009年度実績>
2030年度 △40% △21.3%

■炭素制約・エネルギー制約

電力供給の不確実性
関西電力の発電量構成*過去10年平均
原子力48%
火力41% 水力11%

■超高齢化による人口制約

生産年齢人口の減少(推計)
2010年 955千人→2035年 775千人
市内雇用者報酬(推計)
2010年 2.8兆円→2035年 1.6兆円

■超高齢化による人口制約

老年人口の激増(推計)
2010年 333千人→2035年 403千人
扶助費の負担(推計)
2010年 1,480億円→2035年 1,800億円

京都市の強み

まちなか暮らしの知恵

暮らしの身近にある都市ストックと自然

本質を探究する知の集積

世界とのつながり・ネットワーク

健康で環境にやさしい「歩くまち・京都」

創造し続ける
まち

心ゆたかに
すまうまち

しなやかな強さを
もったまち

課題, 取組方針

低炭素・省エネルギー

地域の介護・福祉

観光振興

①歩いて楽しいまちづくり

- > 脱クルマ中心社会のモデル都市を形成
- > 人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現

②エネルギー地産地消都市づくり

- > 楽しく賢くエネルギーを使える安心安全のまちへ
- > 岡崎地域にエネルギーとエコのショーケースを創出

③木の文化が育む低炭素都市づくり

- > 自然の恵みが生活の中に活かされた社会を実現

④地域で支える健康都市づくり

- > 地域の絆の強化とICTの活用により、生涯にわたって健康で生活しやすい環境を実現
- > 地域における雇用機会を創出

⑤ 日本文化の神髄に触れる観光都市づくり

- > 世界の芸術家や文化人が集う世界文化自由都市を創造
- > 旅の本質を堪能できる「国際観光都市」を実現

未来の制約・課題を克服する「京都市の強み」

まちなか暮らしの知恵



- **京都のまちの歴史、文化の象徴「京町家」約48,000戸**
自然を取り込んだ住まいや暮らし、連綿と続いてきた祭りや生活文化、職人の技や伝統芸能と結びつき職と住が共存するまち
- **近代に端を発する最小の地域自治組織・220の「学区」**
多世代がともに暮らし助け合う強固な地域コミュニティを形成
都心に約3,300本の細街路とその沿道に約41,000件の建築物
- **「環境にやさしいライフスタイルの創造」12の提言**
「もったいない」、「しまつの心」、「使い回し」、「季節の食材」等、
知恵と工夫を凝らした自然共生型の生活スタイル

暮らしの身近にある都市ストックと自然



- **三方を山々に囲まれた「コンパクトな市街地」**
風致地区指定等により市街地の拡大が限定、全人口の約半数が駅から半径500m圏内に居住、全国に類を見ない景観政策
- **山紫水明、多様な生物を育む「都市と豊かな自然が共生」**
人口約147万人の大都市に、市域面積の8割を占める森林農地、まちなかの清流、寺院寺社を中心とする多くの緑が近接
- **重厚な歴史や文化の蓄積を体感できる「多様な都市資産」**
14の世界文化遺産と241の重要文化財、寺社・建築物・庭園、京料理等、数多の歴史文化資源、年間観光客約5,000万人

既成市街地の
未来型都市
モデルを提示

本質を探究する知の集積



- **我が国有数の大学や学術機関が立地する「知の集積地」**
38大学・短期大学が立地、人口の約1割・14万人の学生が交流
最先端医療をはじめ国や民間企業の研究機関が多数設置
- **伝統産業と最先端の技術を融合する「ものづくりの文化」**
大学や伝統産業の技術、人材と結びつき国内外で高いシェアを誇る研究開発企業が多数立地。全国9位の製造業粗付加価値額

世界とのつながり・ネットワーク



- **世界とつながる「Kyoto」**
世界から京都に集い、世界にはばたく多くの研究者、文化人
観光都市としての高い知名度と「京都議定書」の国際ブランド
- **成功事例を国内外に発信・受信する「ネットワーク」**
世界歴史都市連盟会長都市、ICLEI世界理事、低炭素都市推進協議会、プラチナ構想ネットワーク、指定都市自然エネルギー協議会

① 歩いて楽しいまちづくり

世界トップレベルの使いやすい公共交通を構築し、歩く魅力にあふれるまちをつくり、また一人ひとりが歩く暮らし（ライフスタイル）を大切にすることによって、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現。

<指標例：非自動車分担率>
約72%（平成12年度パーソナルリップ調査）⇒80%超

主な取組

<ロードプライシング導入に向けた社会実験の実施>



<「歩くまち・京都」公共交通センター(仮称)の設置>
※公共交通の情報発信, モビリティマネジメントの推進



<LRT・BRTの導入計画の策定>



<パークアンドライドの通年実施>



<都心主要道路における歩道拡幅>
※四条通「4車線→2車線」と公共交通優先化等



四条通の車道を削り、歩道を広げる社会実験

既存公共交通の再編強化

3つの柱

快適な歩行者空間の確保, 公共交通の優先化

ライフスタイルの転換

<物流のモーダルシフトとEV化>



路面電車(京福電鉄)を利用した低炭素型集配システム(ヤマト運輸)

<「歩くまち・京都」ゾーン(仮称)の指定>

※都心細街路における安全でゆとりのある歩行空間の創出



H23年に実施したシェアド・スペース実証実験イメージ

<駐車場付義務台数の引き下げ>

※公共交通利用促進策を実施する建築物。
H23年5月条例一部改正。



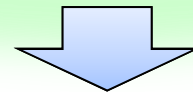
<共同住宅等でのカーシェアリング>

H23年8月「自動車環境対策計画」策定
拠点数91箇所(2010年度)
→330箇所(2020目標)



<歩いてこそ京都・自転車プロジェクト>

※事業者と連携しながら、自転車を使った観光を促進



○脱クルマ中心社会のモデル都市を形成

○人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現



② エネルギー地産地消都市づくり

都心部や岡崎地域を中心に、最先端の省エネ、創エネ、蓄エネ技術の大量導入やモダリティシフト等を進め、自立分散型エネルギーを確保した、安心安全のまちを実現。

＜指標例：温室効果ガス排出量削減率（1990年度比）＞
11.6%（平成23年度評価）⇒25%（平成32年度目標）

主な取組

＜「グリーンZOO」＞

※ 糞尿・食品残渣からのバイオガス回収等
自然エネルギーを活用

バイオガス
（ふんま利用）

太陽光パネル
等



京都市動物園

＜観光地EVカーシェアリング・EVバス＞



EVバス運行実証実験の出発セレモニー

＜化石燃料車の流入抑制＞



＜ICT活用小型電動モビリティ、レンタサイクル＞



＜「次世代エネルギー」の井戸端づくり＞

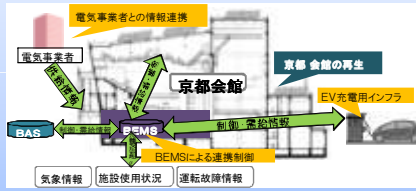
※ 地域コミュニティの交流拠点における
再生可能エネルギーの共同利用



＜公共施設等を拠点とする 市民出資型協働発電＞



＜京都会館の再整備＞



次世代の環境・エネルギー技術の集中導入

＜岡崎地域のエリアEMS構築＞



岡崎地域

都心部

市内全域

＜技術の橋渡し拠点整備＞

※ グリーンハーション・ライフハーションに資する
産学連携による研究開発の推進



＜都市油田・都市鉱山発掘＞

※ 廃食用油 → バイオディーゼル燃料
生ごみ・紙ごみ → バイオエタノール



廃食用油燃料化施設（日量5000ℓ）

＜こどもエコライフチャレンジ＞

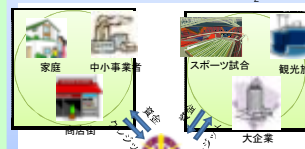
※ 子ども版環境会計簿を活用した学習会・
夏/冬休み中の家庭でのエコライフ実践



全市立小学校で実施

＜京都発！地産地消のCO₂クレジット制度＞

※ H23年8月スタート。1万円/t-CO₂で売買



DO YOU KYOTO?クレジット制度

＜エコ学区の全市展開＞

※ 省エネ学習会+うちエコ診断
+ライフスタイル転換実験



＜特定建築物への再エネ 利用設備の設置義務化＞

※ H24年度から



○楽しく賢くエネルギーを使える安心安全のまちへ
○岡崎地域にエネルギーとエコのショーケースを創出

③ 木の文化が育む低炭素都市づくり

地域産木材の市内での需要供給サイクルを構築するとともに、農の営みやまちなかで生物を育む取組を通じ、自然の恵みが日々の生活の中に生かされている社会を目指す。

<指標例：農林業粗生産額>

15,609百万円(平成23年度評価)⇒18,950百万円(平成32年度目標)

主な取組

<特定建築物への地域産木材利用義務化>

※H24年度から



<伝統的な木造建築物の保存活用に関する条例の制定>

※建築基準法の適用除外規定等を定める



<食や農を大事にした暮らしへ>

※農・流通・食の拠点を中心に、暮らしの根幹をなす農や食にまつわる活動を展開。



五感で感じる農・流通・食の拠点整備
(京野菜の屋上農園+レストラン+食育・料理教室+担い手育成等)

<都市農園制度の創設>

※まちなかの休耕地、空地の活用



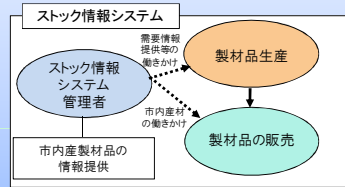
<景観政策の推進>

※高さ規制をはじめとする基本的な枠組みは維持しつつ、景観政策を進化



<木材ストック情報システムの整備>

※川上から川下までの京都産木材の流通を見える化



“農力” 開発

木の文化

自然の恵み

<間伐材等の木質ペレット、木質レンガ利用>



木質ペレット工場 木質レンガ

<「平成の京町家」普及促進>

※京町家の知恵+現代の環境技術



「平成の京町家」開発モデルのイメージ

<京都みつばちガーデン>

※まちなか緑化+ニホンミツバチ養蜂+はちみつの産地消



中京区役所屋上に養蜂箱を設置(ニホンミツバチ)

<鴨川の天然アユ復活>

※市民による魚道・産卵場づくり



鴨川に遡上してきた天然アユ

○自然の恵みが生活の中に生かされた社会の実現

テーマ：超高齢化対応（地域の介護・福祉） ④ 地域で支える健康都市づくり

地域の拠点を中心にICTを活用した生活支援・ケアサービスを構築。
地域のサービスを提供する組織の活動を通じ、地域における雇用機会を創出する。

<指標例：自治会等加入率>
69.8%（平成23年度評価）⇒80%（平成32年度目標）

主な取組

<「地域包括ケア」システムの基盤整備>
※「高齢者包括支援ネットワークシステム」の導入
「在宅療養あんしん病院登録システム」の運用開始

<商店街、市営住宅のストックを活用した地域コミュニティに資する活動の場の設置への支援>

<地域コミュニティ活性化推進条例に基づく取組>
※マンション建設・販売・管理事業者に対し、地域コミュニティとの連絡調整担当者の選任、居住者への地域コミュニティ活動情報の提供等を義務化(H24年度から)

- 地域コミュニティサポートセンターの設置
- 地域コミュニティ活性化支援助成制度(仮称)の創設

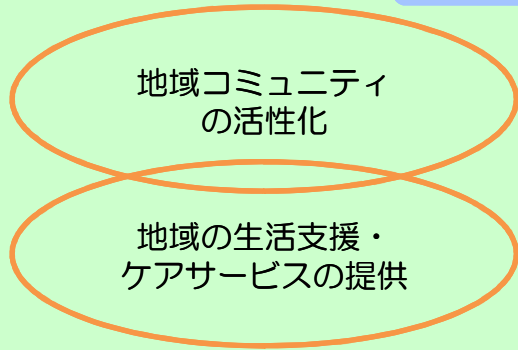
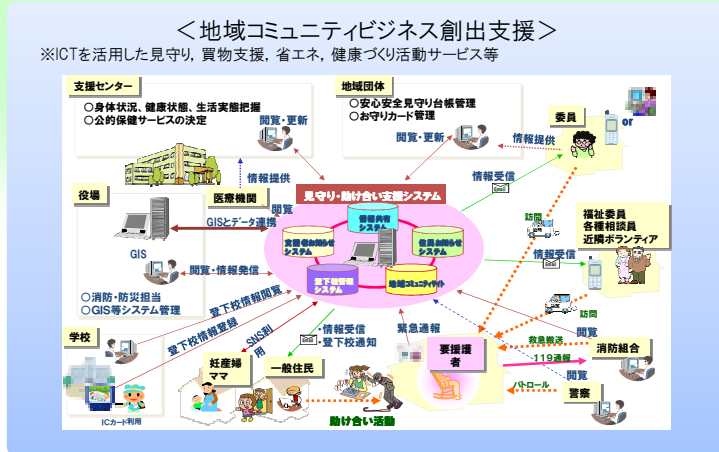
地域コミュニティの活性化

地域の自主的、自立的な地域運営の充実		
だれもが地域活動に参加したくなるきっかけづくり	地域コミュニティや市民活動団体と行政の連携のしくみづくり	地域におけるさまざまな居場所や活躍の場づくり

側面から支援 行政

地域コミュニティの活性化

ひととひと、ひとと地域の絆や信頼を強め、自治力を高める



- 地域の絆の強化により、生涯にわたって健康で生活しやすい環境の実現
- 地域における雇用機会を創出



⑤ 日本文化の神髄に触れる観光都市づくり

世界の人々が日本文化の神髄を求めて集う国際観光拠点の形成を進めるとともに、国内外の人々が旅の本質を思う存分堪能できる観光都市としての基盤づくりを進める。

＜指標例：京都で感動した観光客の数＞
5,000万人（平成27年度目標）

主な取組

＜ほんものを学ぶ京料理塾・文化芸術塾＞



日本料理店で修業する外国人シェフ

＜京都どこでもインターネット・安心救急ステーション＞



＜携帯GPS機能を活用した観光・交通情報発信＞



＜マンガ・アニメ等のコンテンツ産業の人材交流拠点＞



国際マンガミュージアム

国際観光拠点の形成

旅の本質を堪能できる基盤づくり

＜京町家を旅館、レストラン、アトリエ等に整備＞



改修により簡易宿所として利用されている京町家

＜文化的資産を活用した、環境をテーマとするMICEの推進＞



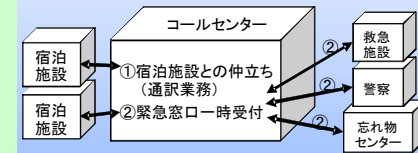
＜多言語観光案内標識のアップグレード＞
※H23年9月指針策定。H23年度から順次整備



複合型通り名サイン

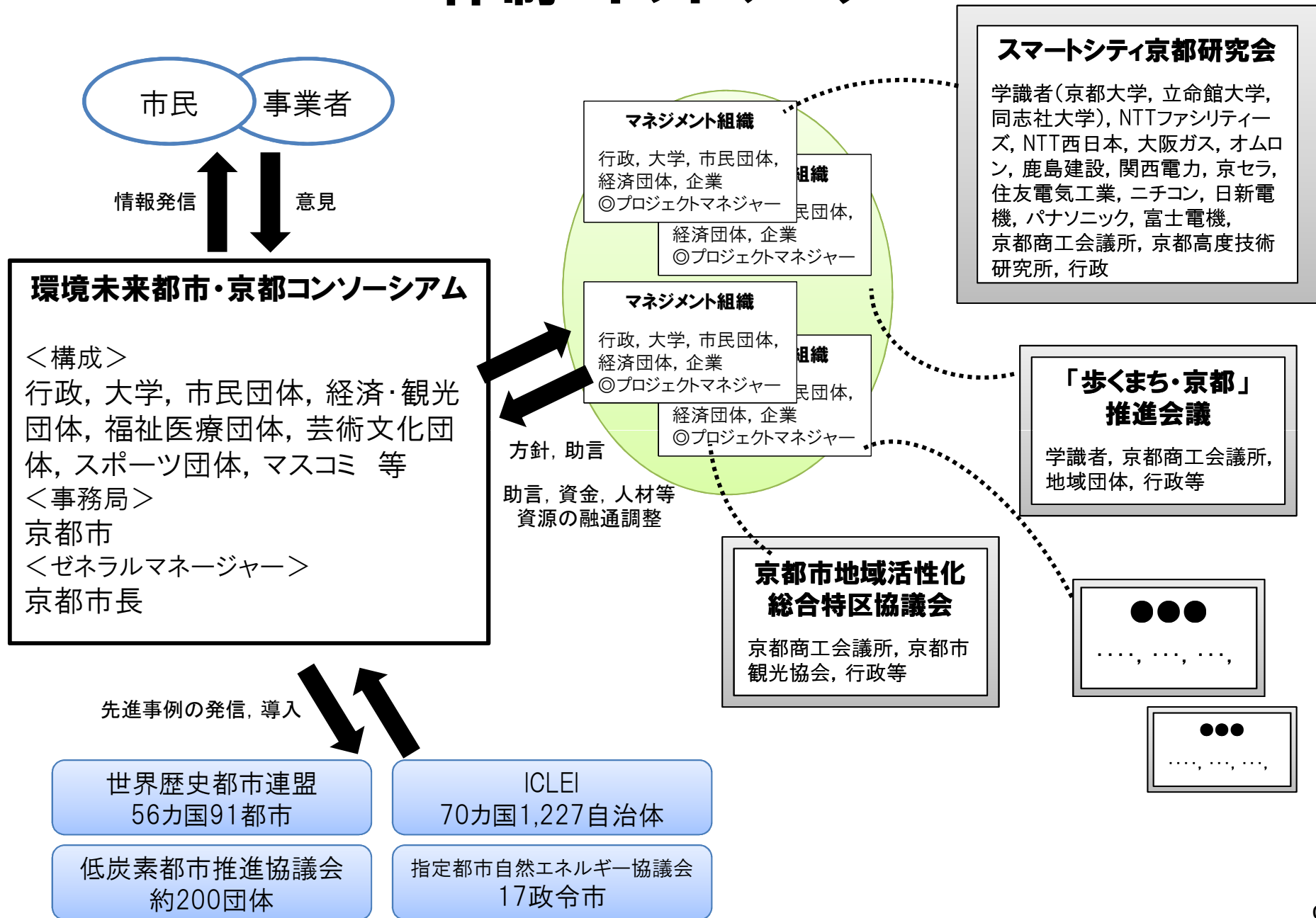
＜多言語対応コールセンター＞

※24時間 4言語対応 宿泊施設のみ対象



○世界の芸術家や文化人が集う世界文化自由都市の創造
○旅の本質を堪能できる「国際観光都市」を実現

体制・ネットワーク



環境未来都市・京都 ～健康で環境にやさしい「歩くまち・京都」～



市民出資型協働発電の普及により自立分散型電源を確保

人と公共交通を優先した道路空間

京町家など伝統的建造物を活用したホテルやカフェ

住民で共有しているEV。自然エネルギーで充電中

通過交通が抑制された街路

京都の食を求めて世界から多くの観光客が来訪

地域で創出した電気を使用した照明

ちょっとした外出はまちかどの
レンタサイクルを利用

歩く暮らしが定着し、健康増進につながっている 人が主役の都市空間

案内標識等、多言語で情報提供
する基盤が整っている

どこでもインターネットができる。携帯端末で
イベント情報、交通情報を1ストップでチェック

京都で採れた旬の野菜や魚が並んでいる

地域産木材を活用し、京町家の知恵を取り入れた京都型環境配慮住宅が普及

使用中のエネルギーが一目で確認できる。市民やコミュニティにより省エネの取組が進められている

既存住宅や商店街空き店舗等のストックを活用した地域サービスの拠点

お年寄りが外国人に京都の文化案内

打ち水など、京都の暮らしの知恵が暮らしの中に息づいている

ものをシェアリングし、使いきる生活が定着している

ICTを活用した健康づくり等のサービス提供

食卓には地域産の食材（旬野菜、蜂蜜等）

「エネルギーの井戸端」を中心に人の輪ができています

電気などのエネルギーを地域で融通

